

日吉中学校屋内運動場の4カ所であるが、いずれの施設も耐震基準を満たしているため、地震の際の避難所としては問題ないと考えている。

問 避難所開設の折の、感染防止策はとれているのか。

答 発熱や咳等の症状のある方専用のスペースを別フロアに確保し、他の避難者との接触を可能な限り減らすこととしている。また、マスク、アルコール消毒液、非接触型体温計等の衛生用品を配備したほか、段ボール間仕切り、段ボールベッドの備蓄を進めている。

問 民家の危険箇所対策はどのように考えているのか。

答 地震、大雨等による土砂災害から家屋を守るため、愛媛県の補助を受け、がけ崩れ防災対策事業を実施している。現在、22件の要望を受け付けており、危険度の高い箇所から年間4カ所実施しているが、可能な限り住民の皆さまの要望に応え、早期に事業を推進するため、県へ事業箇所の増を要望していきたいと考えている。

◆山本 博士 議員

【鬼北総合公園リフレッシュ広場について】

問 広場の遊具が立入禁止となつているが、いつごろ復旧するのか。

答 広場の遊具は、毎年、公園施設製品整備技士の資格をもった業者に点検を委託している。今年度は、4月に点検が行われ、今後、点検結果報告書の提出があるので、修繕を行うか、または撤去し新たな遊具を設置するか検討していきたい。

問 広場のトイレが1つ和式になつて

いるが、洋式にする考えはないか。
答 洋式トイレへの改修に向け、費用を調査し、予算計上していきたい。

問 広場の駐車場を広くする考えはないか。

答 コロナ禍により近場で過ごす家族が増えたため、休日には、駐車場が混雑しているのではないかと推察しているが、駐車場として活用できるスペースが限られている状況であるので、現在の駐車場前方の空地を整備できないか検討していきたい。

【老々介護について】

問 鬼北町において老々介護をされている世帯はどれくらいいるか。

答 4月1日現在で、老々介護をしている世帯は、151世帯である。

問 行政として介護側も含めた環境の改善、家族構成など個々の事案によって対応できるよう、介護のあり方を見直す必要があると思うが、どのように考えているか。

答 介護・福祉・健康・医療など、さまざまな面から総合的に支援するため、相談窓口として、広見保健センター内に地域包括支援センターを設置している。具体的な支援としては、個々の事案に対応するため、家族、地域住民からの介護や福祉に関する相談への対応や支援と充実したサービスを提供するため、関係機関への指導・助言・調整等を行っている。また、町独自の支援として、在宅の寝たきりおよび重度の認知症高齢者を抱える介護者に対し、介護手当を支給している。なお、国は2040年問題を見据えて、介護を含めた社会保障改革について議論が進められており、国の動向を見ながら、介

護のあり方について検討していきたいと考えている。

【新型コロナウイルス対策について】

問 学校や保育所におけるコロナ対策の中で、先生活の負担となつていることはないか。

答 小中学校においては、学校規模によつて、負担を感じていない学校もあれば、消毒作業や給食の配膳に時間を要するなど負担と感じている学校もある。一方では、会議や出張の減少により、子どもたちと接する時間は増えており、一概にマイナス面ばかりではないと考えている。

また、保育士については、小中学校と同様に感染防止対策に気を使い、負担と感じている保育所もあるが、行事等の減少により、児童と接する時間が増え、充実した保育に繋がっていると聞いている。

問 コロナ禍の中で、取り止めとなつたさまざまな研修、行事などがあると思うが、これを機会に見直しをして、先生活の働き方改革をしてはどうか。

答 この度のコロナ禍によつて、行事、研修等を取り止めたり、規模を縮小したりした中で、教育活動に直接影響がなかったものもあり、今後さらなる改善が図れる可能性もあると考えており、学校と連携をとりながら見直しを行い、働き方改革を進めていきたい。

また、保育所においても、主催や連携する機関と協議の上、見直しを行い、働き方改革に取り組んでいきたい。

◆高橋 聖子 議員

【ICT（情報通信技術）を活用した教育について】

問 今後のICT活用教育の推進について

答 教育委員会では、平成27年度に情報教育機器を整備した折に、「デジタルとアナログの融合」をテーマに掲げ、従来から教師が授業の中で大切にしてきたものは、引き続き研究・改善・実践しつつ、ICT機器は授業改善を進めるツールの一つとして日常的に活用できるように取り組んできた。今年度、児童生徒一人一台の端末整備が完了した後は、複数の学級で同時にICT機器を活用した授業が可能となり、「デジタルとアナログの融合」がより一層進展するものと考えている。

問 学習ソフト利用状況について

答 現在活用している学習ソフトは、基本的な文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトを始め、双方向で画面を見ながら授業ができる授業支援ソフト、デジタルドリル教材等を利用している。今年度整備する端末は、ソフトウェアは含まれていないので、既存のソフトウェアを活用しつつ、学校と協議を行いながら、導入していきたい。

問 オンライン授業について

答 オンライン授業の方法は、学校の情報主任委員会で話し合うようになっている。オンライン授業ができるよう学校と連携をとっていきたい。

問 ICTインフラ整備について

答 端末およびソフトウェアは、全児童生徒分を整備予定である。通信回線やネットワークは、平成27年度に整備を完了しているが、サーバの増設や通信回線の増強などを行い、円滑な授業ができるよう努めていきたい。